

なぜ英語が話せないの

会話上達法第三部総括編

<71>

と化している。

元NHK英会話テレビ講師の松本道弘氏は「読ま、書きはかりが重視され、聞き、話すの活用面が見落とされれば、英会話能力のない生徒や学生しか育たない」と指摘する。

久留米英語講習会の真崎良幸代表は「第一経済大講師の田中睦は、技術面が中心の入試英語では、英語が苦痛になり、卒業するまで話すべからぬ」と現状を分析。田中睦・福

日本の教科書や入試に出ている単語は、欧米人にさえ難解なものが多い、日本という基本的な単語千五百十語のうち、約二〇割は英国で使う基本二千語にも含まれていない単語。外国語テストなのに、難しすぎ、受験生をますます単語の猛烈暗記にかり立てれば、とても実用会話どころではないのが実態だ。

「日本は世界中で関係級を通じて最も英語の通じない国」と、ライシャワー元駐日大使は述べたが、この「語学鎖国」をもうらしたのも二つの要因は、英会話能力に欠ける教師である。文部省派遣の「英会話指導主事助手」として県下の中、高校の英語教師を指導したボニー・ウィルムズさん

が「目立つ」と、消極姿勢からの脱却を訴えている。外国語はうまく出来なくて当たり前なのである。会話学習法では、会話を「電話」「天気」「スポーツ」など五分割りに覚えるのも一つのやり方。これだと分野が広がることに、実力の向上がはつきり分かつ。また、外国人の友人をつくらせたり、カセットや英字新聞を利用するのも役立つ。英会話は「決して難しいものでなく、日常会話を平易な単語を使ってこなせるよう毎日、こつこつ努力を積み重ねることが肝要」と、戸田昭二・実践英語セミナー学院長は話している。

入試英語の改善を

必要な教師の質向上

のが当たり前。文部省や各大学は共通一次試験にヒアリングを即時出題するべからず、いかに英断をせよ、やがては「いい」と強調する。

この点、英国人作家のアン・ブース氏(NHK英会話講師)は「日本は、国

島高教諭は「私立大学の入試英語には、特に超高度の単語知識がないと、解けない問題が目立ち、受験生のどんな能力をみよようとするのか、首をひねりたくなる問題も多い。出題者の意識改革がなければ、事態は好転しないだろう」と話している。

入試や教師の質の問題に加え、英会話を学習する側にも再考の余地は多い。同時に活字やニュースキャスト

「語学に『王道』はない。要するに、やる気がまず必要で決する」と言ってもよい。そのためには個人の強い決意はもちろんだ。英語教育や教師の意識改革が急務である。行政当局や教師の反省を促すとともに、学習者の地道な努力を期待したい。

わたしたちは、この企画でわが国の実用性を欠いた英語教育を取り巻くさまざまな問題をひとつひとつに突き詰めていく。国際化の波が身近に押し寄せている現在「読み」「書き」に偏り「会話」軽視の傾向は、早急に矯正すべきだとの声は年々、高まっているものの、抜本的な改革は依然、実現していない。中学、高校、大学と長い間、英語を学習しながら、ニッポン人はなぜ英会話が苦手なのか。国民の大多数が痛感しているこの問題について、最後に「総括」してみた。

「日の丸英語」として称されるわが国独特の英語教育の最大のガンは「入試英語」である。大学入試は相変わらずの会話無視。英語は、入試や入社試験での単なる「記憶テストの道具」

鹿兒島の四県が採用し、宮崎県も今年から実施に踏み切る。しかし、教育先進県、を自認する福岡、熊本、山口三県はヒアリング導入に消極的な姿勢を示し、大きく立ち遅れた格好だ。また、

実際のにも英語を学ばないためのオーディオテープや、施設に恵まれており、一定の準備期間を置いて、地域や学校間の不公平をなくせ

が密には英語を話せない状態にある。会話重視の姿勢を反省して、生きた英語を学ばせたいと増えているが、「入試や授業時間の制限には生まれ、生きた英語を教えるのは至難である」。福田教授は「教師が自分の会話力を高める一方、授業では少しでも会話を重視する工夫が大切で、教師のいそぎの努力を説いている。

教師の質の向上を図るためには、熊本県が行った「中訓練計画」(略称TTC)のように、大半の中、高校英語教師を再教育する長期計画が有効。県や市町村当局はもっと財政面で協力すべきだとの意見も多い。

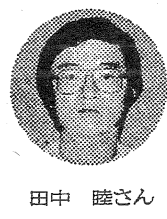
「恥の文化のせいか、下手な英語力を隠そうとして自らの進歩の歩をむくケース



松本道弘さん



アラン・ブースさん



田中 睦さん



ウィルムズさん



真崎良幸さん



福田昇八さん



国弘正雄さん



戸田昭二さん

(おわり)